

薦温泉：千年にわたる温泉の歴史

古来の保養地

薦温泉に関する歴史上で最初の記述は、ほぼ千年も前の 1147 年のものです。史料には、温泉だまりと、その近くの入浴者が利用する小屋（おそらく温泉の湯が爽快で疲れを癒してくれると感じた地元の猟師か炭焼き職人が建てたのでしょう）の存在が記録されています。温泉は何世紀にもわたって人々を魅了し続けましたが、冬の厳しさのため、常設の建物は建てられませんでした。

伝統的な旅館

江戸時代（1603-1867）に高度な日本の大工の技術がこの地域に導入されると、温泉の近くにより頑丈な建物が建てられるようになりました。1897 年、小笠原四郎をはじめとする地元の人々が、旅人がごく簡易な施設に宿泊できる保養地として温泉を経営し始めました。旅人の多くは徒歩で付近の神社に参拝する巡礼者で、喜んで疲れた体を湯で癒しました。その後、小笠原は妻のナカとともに単独で経営を手掛けるようになり、温泉旅館を開きました。1918 年に完成した薦温泉の木造の本館は、現在も当時の玄関と客室の一部を残しています。以降、アクセスの向上や高い評判に惹きつけられたより多くの旅行者を泊められるように増築が重ねられてきました。

病を治す神

歴史家の中には、この温泉では初期から薬師如来という仏教の神が祀られていたと考える人もいます。薬師如来は日本で最初に広く信仰されるようになった仏教の尊格のひとつで、病を治す仏です。古くから温泉には治療効果があるとして大切にされているため、温泉と薬師如来とのつながりは意外ではありません。現在、宿の近くにある小さな仏堂には、薬師如来の像が安置されています。